

令和4年森林吸収源インベントリ情報整備事業九州ブロック現地講習会報告

開催日：2022年6月8日(水)

場所：長崎県長崎市（格子点ID：420150）

受講者：(株)九州自然環境研究所6名

講師：稲垣（昌）、鳥山、森（森林総研九州支所）、石塚、小林（森林総研立地環境研究領域）

概要

九州ブロック担当の(株)九州自然環境研究所を対象に、長崎県長崎市多比良町の民有林において現地講習会を行った。調査地点はアラカシの優占する常緑広葉樹林で、下層植生は疎であった。傾斜が急だったため林内での移動はやや困難だった。天候は晴れで、気温は約25℃と比較的快適な作業環境であった。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスク着用等の対策を行った上での講習会となった。

午前8時30分、セブンイレブン長崎畝刈町店の駐車場に集合し、調査地点まで車で移動した。本調査地点は受講者によって事前確認が行われており、受講代表者から事前に「調査プロット内にH層と思われる層位を発見したので全員が判定方法を習得できるようにしたい」との目標が挙げられていた。講習に先立ち、駐車スペースにて挨拶・趣旨説明を行った。調査プロット内には電気柵があったため、絶縁性の布で上部を覆い、安全に通行できるよう準備をした後に講習を開始した。

受講者による事前確認によって中心杭・円周杭の位置は既に特定されていたため、探索に時間を費やすことなく講習を開始できた。調査プロットの南側は崖、さらに先は舗装道路、水路となっており、円周杭が中心杭に極端に近い位置に設置されていた。土壌炭素蓄積量調査位置の決定方法について、マニュアルの模式図を用いて以下のように説明した。すなわち、①円周杭が正規の位置にない場合、中円を攪乱しなければ現存する杭を基準に調査位置を決定すること、②本調査地点のように中円を攪乱する場合は、正規の位置に仮杭を設置し調査位置を決定することになること、③しかし本調査地点の場合、正規の位置は崖と舗装道路を挟んだ水路に位置するため、S地点の調査は不可能と判断されることを説明した。ライン長の測定および林相写真撮影の後、枯死木調査を行った。土壌炭素蓄積量調査に時間を優先的に使いたいとの受講者の意向に従い、調査地概況調査については土壌調査の終わった班から随時行うこととした。根株が半分ほど土に埋まっていた場合は直径が測定できるようにある程度堆積有機物を取り除くこと、根株のこぶの部分は直径には含まないことを指導した。

午前10時50分から、3班に分かれて土壌炭素蓄積量調査を開始した。経験の豊富な受講者が土壌調査未経験者を指導し、適宜講師が助言と指導を行う形式で進行した。土壌調査位置は穴の中心ではなく断面の位置であること、初心者には断面に出現した根は剪定鋏で切断するべきで引っ張ってはいけないことを指導した。3方位それぞれの調査進行に合わ

せて昼食を取ったのち調査を継続した。E地点およびW地点は礫が多く出現したためブロックサンプリングを行った。サンプルが十分量採取できない場合は、深度全体の石礫率を反映するような範囲で採取箇所を広げて採取することを指導した。土壌調査の終わった班から調査地概況調査を行った。調査終了後、プロット内のH層の出現した地点に全員で集合し、H層の色や手触りを鉍質土層と比較して違いを判別できるよう講習を行った。講評および要点の確認を行い、16時30分に解散した。

経験を積んだ受講者らの作業は適切かつ丁寧であった。本講習会では、全受講者がすべての様式についての作成方法を取得することができた。また、H層の判定についても全員が経験する事ができた。経験者による初心者への指導も含めて、必要な調査精度で調査が進むものと期待される。



写真1 調査地概要（常緑広葉樹）



写真2 調査不能と判定したS地点



写真3 林相調査



写真4 枯死木調査



写真5 円筒によるサンプリング



写真6 ブロックサンプリング



写真7 H層の判別講習



写真8 N地点の土壌断面



写真9 E地点の土壌断面



写真10 W地点の土壌断面